

『極楽地獄』

『極楽地獄』 作・中屋敷法仁

【登場人物】

- A (永島／オーナー兼シェフ兼クレーム処理係)
- B (赤坂の妻)
- C (赤坂くん)
- D (変態教授)
- E (弟)
- F (姉)
- G (肉屋の少年)
- H (赤坂の母)
- I (避難民／裁判官)
- J (刑事／姉弟の祖母)
- K (刑事／姉弟の祖父)
- L (お得意様／姉弟の父)
- M (姉弟の母)
- N (従業員)
- O (従業員)

【1】

開幕。そこはホテルグループ「レッドクリフ」赤坂店。
全出演者が立ち並ぶ中、Aの独演。

A 眠そうな顔しちゃダメですよ。眠そうな顔しちゃダメですよ。オメメぱっちり、スマイルすっきり、背筋しゃっきりできまっしょい。しかしリキまず、ほどほどに。ほどほどにリキんで、ハイ完成。

はじめましてなら、はじめまして。面接で会ってたら、おひさしぶり。ホテルグループ「レッドクリフ」の新入社員研修担当。鬼の厳しさ、仏のまごころ、猫のかわいさ、永島です。

今日まで2週間14日間、社員研修お疲れさま。ホテル業務のいろんなイロハを覚えて学んで身につけた。もはや立派なホテルマン、の卵だヒヨコだハッピーバーズデー。

今日はいったいナニするかって？ナニする？打ち上げ？違います。今日は研修最終日。わたくし永島の特別講義。みんなで楽しくワークシヨップ。お勉強とはちと違う。皆でやろう、考えよう。テーマはズバリ、ホスピタリティ。

やさしさってなんだろう、おもてなしってどないやねん、そんなこんなを皆で感じる、有意義すぎる8分。あとはたったの8分で、地獄の研修も終わりだ、やった。

無事に終わったら、どうしょ？

皆でタンゴを踊りましょう。懇親会にいきましょう。赤坂見附に飲みに行こう。でも強要はできない、それじゃアルハラ。強要はしないが懇親会の、経費は全額、会社持ち。ラッキーサンキュー。行かなきゃ損だ。

うだうだ言っても始まらない。
ビクビクしたってしょうがない。
レッツらスタート。やるしかない。
ほんとに時間をもったいない。

まずはこちらにご注目、

ホワイトボードにさらさら。

この文字、フレーズ、知ってるかい？
読めるもんならエビバデセイ。

この文字、フレーズ、知ってるかい？
読めるもんならエビバデセイ。

セイ、と言われても、ぐう、の音も出ず、一同、固まるアストロン。
まあ無理もないさ、この四文字は、不快感おぼえるキラーワード。日本犯罪史に燦然と、その名を轟かす「芋煮事件」。宮城県各地で発生・発覚、おそろしい恐怖の「芋煮事件」。残忍さ故に徹底された、報道規制にも関わらず、SNSで情報拡散。日本全国、阿鼻叫喚。それがズバリどん「芋煮事件」。

この文字、フレーズ、もう知ってるね。
声を揃えてエビバデセイ。

発言するD。

D 「芋煮事件」とは呼びたくないです。

A 発言を許可した覚えは無いけど、発言を禁じた覚えも無いから、プラマイゼロだけ、はいもう一度。

D 「芋煮事件」とは呼びたくないです。「芋煮事件」とは呼びたくないです。「芋煮」のイメージが悪くなる。

A さては君君。山形県民。
D いいえ、生まれは福岡です。

A 福岡県民の分際で、芋煮のイメージの心配すんな。モツ鍋喰ってどんたく踊れ。言い過ぎたごめん、福岡県民。「芋煮事件」と呼ばずして、あれをなんて名付け得る。

D ええっと…
A カモン

D 宮城県…
A はい。

D 無差別…

A はい
D 大量。

A 待て。僕は彼女の表情の変化を見逃さなかった。さては君、ピンときてないな。「芋煮事件」だけ「芋煮事件」。うわ。なんにも知らないシンデレラ。ウブな生娘。過保護のカホコ。報道規制の成功例。

いや、でも、よかった「芋煮事件」を、まーるで知らない君にこそ、この研修はプライスレス。知っているって言うてるやつも、持っている情報はバラバラだ。嘘やらデマで、めっちゃくちゃ。

今日こそ今こそ「芋煮事件」。「芋煮事件」の真実を、知ろう掴もう手にしよう。そんな新人研修です。

ちよつと気分が悪くなった。そんな人います正直に？やめる、続ける、どうします。やめたらクビだよ、うん続行。

今から行なうワークショップでは「芋煮事件」の関係者。その証言・手記をもとにして、僕らも事件を追体験。わお。

C 目的は一体なんですか？

A あーい？

C 目的は一体なんですか？

A 目的なんか知らなくて結構。これは研修プログラム。いやなら拒否して大いに結構。

B いやです。無理です。拒否します。

A 何にもやらずに拒否しないでよ。

B いやです。無理です。拒否します。

A せめてやってから拒否してよ。

一同 いやです。無理です。拒否します。

A でもね、たったの30分。30分だけで終わっちゃうんだ。黙って聞いてりゃハイお終いさ。やめる続ける、どうします。やめたらクビだよ、うん続行。思い出すことも、ためらわれ、口に出すことも、はばかられ、忘却の彼方に葬りたい、それでも消えない過去がある。

ホテル業界、リゾート業界、レジャー業界の黒歴史。
耳をふさぐな、目を背けるな、これは、地獄の物語。

【2】

- A 2011年3月21日午後二時。
- E やいやい、その宮城県民。
- 一同 なんだクソガキ、うるせえぞ。
- E クソガキじゃねえ、道産子だ。
- 一同 なんだ道産子、うるせえぞ。
- E 俺の姉さんはどこにいる。俺の姉さんはどこにいる。
- 一同 てめえの姉なんざ知らねえよ。てめえの姉なんざ知らねえよ。
- E と、言われる前にもう勘づいた。ここに姉さんがいるわきゃねえ。何しろ俺の姉さんは、札幌いちのべっぴんで、こんな汚え場所にいたんじゃ、例えてみりゃあ掃き溜めに鶴。
- D 鶴だかサギだか知らねえが、夜風をしのごこの場所を、掃き溜め扱いは許さねえ。ヨソモンのあんたにや薄汚え、ただの避難所に見えるだろうが、ここはかつての俺の母校。この体育館はバスケット部だった俺の青春のタイムカプセル。
- E 俺の姉さんはどこにいる。
- 一同 てめえの姉なんざ知らねえよ。
- E 俺の姉さんがいないんじゃ、こんな掃き溜めに用はない。
- D どこに行くんだ？
- E 探しに行くんだ。
- D どこ探すんだ。
- E どこもかしこも。
- D 外に出るのはやめておけ。
- 一同 仙台市内は闇の中。
- D てめえの姉さんとやらだって、
- 一同 どうせ流され海の底。
- E 姉さん。
- A 遠く札幌から仙台に、姉と一緒にやってきた、この青年の宿泊先、それがホテル「パラダイソ」。

【3】

ホテル「パラディーン」。

- J ホテルがあったのは山の中。
I 宮城県の北西部。
J 地図には全く載っていない。
I ホームページも存在しない。
J 旅行サイトをじゃらんと見ても、
I どこにも名前は乗っていない。
J 知っている人は知っている。
I 知らない人はまったく知らない
J 客室全部で21。
I 小さな小さなホテルだった。
J 極上のサービスを提供する。
M そんな噂を聞きつけました。
A 誰がそんなこと。
J あくまで噂。だってお客が途切れない。
M アクセスの悪いこんな山奥で、
J よくもまあまあ。
M よくもまあ。
J 杜の都観光協会。
M 杜の都観光協会。
J 地元の他の観光地と、
M 連係しましょう盛り上げましょう。
A 私どもは、この山奥でこっそりひっそりやりますから
K 宿泊一泊希望したい。
A たいへん申し訳ございません。こちらは完全会員制。会員の方の紹介
が無ければ、お泊めすることはできません。
J M そんな感じ？

- A そんな感じですか。そんな感じで門前払い。
- E (登場) お久しぶりです。
- A お久しぶりです。
- E 急にすみません。
- A ホントに急。
- E 大丈夫でしょうか？
- A 大丈夫です。すぐにお部屋をご用意しましょう。
- JM やつら泊まれるの？
- E 会員ですから。
- A お部屋はひとつしか空きがありません。
- E ベッドは？
- A ツイン。
- E いいかい、姉さん。
- F いいわ、弟。
- E いいです。
- F いいです。
- A わかりました。
- A リゾートホテル「パラダイソ」が出来たのは、二〇数年前。もともと桑畑だったこの土地に、急に建設、急に人気。でも完全会員制。
- A そしてわたくし永島が、今からやりますこの男「パラダイソ」オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。セイ。
- 一同 オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。
- A 名前はあえての匿名希望。
- A 二〇二二年三月二〇日午後一時。そこにやって来た
- F 姉と弟。
- E 姉と弟。
- F 名前はあえての
- E 匿名希望。

一同、談笑。

A 最後いらしたのは、いつでしたっけ。

F 去年です。

A そうだ去年です。

F 母さんの三回忌、

E 父さんの七回忌、

F おばあさんの十三回忌。

E ばっちり揃った去年です。

A 奇跡の年でしたね。

N もう当分は来ないと思っておりませんが、

A どうして、また。

E どうしても是非、今週末に姉さんには是非、極楽気分を。

A 極楽気分。

N O 極楽気分。

A 極楽気分。

N O 極楽気分。

A 極楽気分。

N O 極楽気分。

A 極楽気分。

N O 極楽気分。

F お願いします。オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。

A なんとたるバットタイミング。今週は既に極楽気分のご予約が。お得意様ー。

L 御年九十。大正生まれ。お得意様のおばあちゃん。

一同 その親戚やら

一同 友人やら、

一同 あわせて総勢22名。

A 皆様のサービスで手一杯。

E そこをなんとかお願いします。オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。

A 問題はサムワンもうひとつ。ルックミー。腕がしびれてる。

- 一同 わあ…急にしびれてる。
- A 包丁が握れないのです。
- E え、それじゃあ、今週末の極楽気分は。
- 一同 極楽気分は。
- E 極楽気分は。
- 一同 極楽気分は。
- A ドントウォーリー、新人の赤坂君がやつちやるけん。
- 一同 赤坂、誰？
- C 俺が赤坂。
- A 私ならいけたかもしれない。お得意様もお姉さんも、極楽気分はチヨ
ー余裕。しかし、新人の赤坂君に、ダブルは無理だ。
- C ダブルでやります。
- A 男気、でたよー。
- C このホテルに来てすでに半年。もう新人じゃありません。やってみせ
ます。
- E やったね、姉さん。
- F 絶対いや。
- A 女心、出たよー。
- F オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。私はあなたの腕を見込んで、急
なお願いをしています。こんな新人絶対いや。
- C 新人じゃねえ。赤坂だ。
- A この赤坂くんってのは仮名です。ここに来る前は赤坂の高級料亭で働
いていたんだ。だから赤坂くん。セイ。
- 一同 赤坂くん。
- C 俺が赤坂だ。

【4】

C (赤坂) と B (赤坂の妻)。

- B お帰りなさい。臭い。やだ、あなた、中国人くさい。韓国人くさい。
中国人が、韓国人が、日本料亭に来るんじゃないやねえ。
- C 赤坂の料亭をクビになった。
- B えー。なによそれ。でもまあ、いっか。どんなに給料が良くなったって、中国人や韓国人に、日本料理を作るよりはマシ。
- C 妻です。妻と出会ったのは、かつての勤め先。
- B くっさ。この店、なに？中国人くさい、韓国人くさい。
- C そこに客としてやってきたのが妻。とある大物政治家の、愛人でした。
- B 愛人じゃない。
- 彼を支える専業主婦。こいつが奥さん、そう1号。彼が愛する蒲田のホステス。こいつが愛人、そう2号。私は彼の心を癒す、ペットのような3号にゃん。3号にゃん。でも、週刊誌が伝える所では、どうやら私は7号、そう。
- 私や奥さんホステスの他に、秘書見習いにグラビアアイドル、エステティシヤンに舞台女優、彼は7人の女をキープ。ガールズバーのヘルプな私は世間から見れば最底辺。つまりは7号、なんだよ、がっかり。3号じゃなくて7号なんて。
- A その政治家の名前は、伏せておく。国会中継を見るときは注意しろ。居眠りする時は仰向けで、有権者にさらすマヌケ面。大手ゼネコンとの太いパイプで不倫報道なんのその、おそらく死ぬまで議員様。
- B 議員の7号、もういやだ。あんたの1号にしてくんない。
- C まったく好みじゃなかったが、
- B 大丈夫。わたしが好みだから。
- C 付き合うことになった。
- B やったぜ、彼とは別れます。
- C やがて結婚することにした。

- H (赤坂の母) うそでしょ。披露宴だけはしないで頂戴ね。お金かかるんだから。あと、こどもとか作らないでね。お金かかるんだから。家も引っ越したくないでね。お金かかるんだから。
- C 母です。母は金の話しかしません。
- H で、相手の名前はなんていうの？
- C 金の話の後で、ようやく妻の名前を聞いた。名前はね…
- H 職業、貯金は？ 財産は？
- C 母はそんな女です。赤坂の料亭をクビになった。
- H うそでしょ。これからどうするの？
- C 仙台に戻っていいかな？
- H 東京の方がお仕事あるでしょ。
- C 仙台に戻りたいんだ。
- B 仙台への愛だ。
- C 母さんへの愛だ。前から親戚に言われてて。母さん、ちょっと悪いらしい。
- B 母さん、ちょっと悪いって？
- C 腰とか。
- B 腰とか。
- C 腰とか。
- B 足とか。
- C 足とか。
- B 足とか。
- C 頭とか。
- B あたまー。介護？介護するの私？
- C 側にいてやりたいんだよ。
- B 介護じゃん。絶対、介護じゃん。
- H 誰？
- B 嫁。
- H 誰？
- B 嫁。
- C やべえなオイ。
- H あんた、騙されてるわ。別れなさい。
- B 騙されたのは私よ。あんたの介護するんだもん。

- H 私の介護をあんたがするの？　ってか私、介護されるの？
- B オシメかえます。
- H いやー。
- B 1時間後。
- H 腹を割って話してみれば、
- B なかなかどうして馬が合う。
- C 母と嫁とのことはなんとかあったが、仙台での職探しは難航した。調理の仕事は見つからない。ホテルはどこも人手がいっぱい。
- B あそこのホテルは？
- C 偶然、見つけたのがこの「パラディソ」。イタリア語で天国。
- B おしゃれね。
- C ラブホテル？
- B いや、違うっしょ。おっきいポンプとボイラー。中に大浴場がある。嫁は鋭い。
- B (フロントで)あの一、すみません。あたしの配偶者、こちらで働かせてもらえないでしょうか？
- 誰もいないのかな。ちよつくら厨房行ってみよう。

突然、芝居を止めるA。場面は「パラディソ」へ。

- A あ、もう結構です。
- F なんか、長いです。
- E 赤坂さん。
- C 俺が赤坂だ
- E あなたの本気はよく伝わった。しかし、腕前は疑わしい。食ってみてえな、あなたの料理。あなたの手掛ける極楽気分。
- C わかりましたが、それには何より、お得意様のお許しを。
- A お得意様ー。
- L いいよ。
- A 許可、得た。
- C 明日は6月2日。お得意様の極楽気分。それをちよいと味見して、お

氣に召したなら、お姉さん。明後日はあなたの極楽気分、私がやりま
すつとめます。

E F お手並み拝見といこうじゃねえか、赤坂さんよお。

【5】

場面は「パラディーン」へ。

L 御年九十。大正生まれ。お得意様のおばあちゃん。

一同 その親戚やら

一同 友人やら、

一同 あわせて総勢22名。

L みんなでお散歩に行きましょう。ありがとう。こどもたち、まごたち、
ひまごたち、やしやごたち。愛する家族に囲まれて、本当に極楽だよ。
ありがとうね。ありがとうね。ありがとうね。

E お得意様。すごい数の家族だったね。

F そうね。

E 俺らは、たったのふたりぼっちだね。

F そうね。

E 姉さん。結婚すれば、よかったんだよ。

F あんたこそ。

E 姉さん。結婚してこども作ればよかったんだよ。

F あんたこそ。

E ねえ、結婚しなかったのって、やっぱり、俺のせいなのか。ハタチで、
ニートで引きこもり、そんな俺のせいなのか。

F あんた、何が好きなんだっけ？食べ物。何が好きなんだっけ？

E ナポリタン。シーフードナポリタン。

F それじゃ明後日の極楽気分。シーフードナポリタンでいきましょう。

E 極楽気分は姉さんのものだ。姉さんが好きな物にしな。

F 何言ってるの、私の極楽。それはあなたの幸せ。

『極楽地獄』

E 姉さん。

【6】

ホテルグループ「レッドクリフ」赤坂店。

A しまった。いろんなエピソードに時間をかけすぎた。あ、そうだ。う
っかりチャップリン。ちなみに赤坂くん（仮名）は、先月かな、法務
大臣により死刑が執行されました。

一同 ええっ。

A 知ってる人は知っている。

C ネタバレですよ。

A ネタバレってなに。人の人生だぞ。もう震災当日でいいでしょう。
一同 え？

A はい。翌日〇月二日午後〇時頃。

【7】

地鳴り。

A もう、おさまったか。

N おさまってます。

A テレビをつける。

O 客室に行け。

A お客様は。

N 確認します。

A 厨房はどうだ。

O 食器は無事です。

A 冷蔵庫は。

- N いまのところは問題無し。
一同 ほっ。
- A ただ朝食用のパン以外は、
O 鮮度が命のフレッシュ食材。
A 停電になったら、全滅だ。
N 停電になるその前に、
A せめて火だけは通しておきたい
O しかしそれには問題が。
A ガスも水道も止まってる。
N 復旧するまで立ち往生。
A しまった。お得意様の極楽気分は。
O だいじょうぶい。
一同 ほっ。
- A 大正生まれのお得意様の、親戚やら友人やら、あわせて総勢22名。
N どうやらそれも、大丈夫。
E 姉さんがいません。
A 弟さん。
E 姉さんがいません。
A 一体どこに？
E 漁港
A 漁港？
E シーフード。シーフードナポリタン大好きな、俺の為に姉さんは、シ
ーフード探しに漁港へと。
A 漁港にシーフードは売ってない。
E だってあるでしょ仙台朝市。
A 朝市があるのは駅前だ。
N やばいな。見てくださいテレビ。
O 津波が、うんたら、かんたら。
E 津波がうんたら、かんたら。
A お部屋に戻って、弟さん。ここは山の上、安全です。
E 姉さんは漁港だ、安全じゃない。俺は姉さんを探しに行く。

C 心配過ぎます

A 赤坂君？

C 心配過ぎます、妻と母。家に戻ります。

A 僕の腕がしびれてる今、包丁さばきがアレなのは君しかいないんだぞ。

C しかし家には、頭がアレな母と、モラルがアレな妻がふたりきり。

A ダメだ。君はここに残って、極楽気分の準備をするんだ。

C しかし、しかし、しかし。

A 眼差しハンパねえな。わかったよ。夕方までには。戻ってこい。それまで、こっちは、極楽気分なやつの基本の仕込みをやっておく。

C ありがとうございます。

E 途中まで一緒にいきましょう。

C しよう。

A 3月2日午後3時。弟君と赤坂くんは「パラディソ」を離れた。

A いいか、俺たちはホテルマン。ここは極楽気分を提供するリゾートホテル「パラディソ」。どんな状況でも極上のサービス、最高のおもてなし。

一同 はい。

【8】

A その9時間後。3月2日午後6時。

N ガスと水道が復活した。

A しかし、赤坂君と弟君、

O お姉さんも戻って来ない。

A そんなホテルの入りに

N O 部外者がどんどん集まってくる。

J 部外者とは何だ失礼な。

I 地震から津波から、避難して、

J ようやくここまで逃げて来たんだ。

I 命からがら逃げてきたんだ。

- A こどもからお年寄りまで総勢30名。
J 3月の冷たい夜風が
I 僕らの体力を奪って行く。
J 中に入れてください。
I 部屋に泊めてください。
N 申し訳ありません。こちらは完全会員制。
J この期に及んで会員制。
I 野宿しろっていうのかよ？
N 近くの避難所まで、バス出します。
J お前ら、それでも人間か。
I 鬼だ。悪魔だ。犬畜生。
J お前らがそんな態度なら、
I もうナニするかわからんぞ。
J 火をつけたっていいんだぞ。
A やりかねない。
N わかりました。
- A 結果的に、避難して来たこどもからお年寄りまで総勢30名をロビーに入れた。この判断が、後におそろしい悲劇を呼んでしまう。
J たしかに、俺たちは客じゃない。
I でも、この扱いの差はひどい。
J 空いてる部屋があるだろうに、
I どうして俺らを入れないんだ。
J おい。なんだこの、ニオイは。
I ビーフシチューだ。
J ビーフシチューだ。
I 一同 ビーフシチューだ。
J 今や東北中が、日本中が
I どんより悲しみにくれている
I 一同 こんな時に Beef シチューだと。
O これは…お客様の為の料理ですので。お客様の極楽気分ですので

J 金は払う。食わせてくれ。
I ビーフシチューを分けてくれ。
O 申し訳ございません。あのシチューは、お得意様のものです。
A ロビーにいたこともからお年寄りまで総勢30名は、厨房へと歩き始めた。

O 待ってください。こちらはダメです。
J 何がダメなんだ。
I 何がダメなんだ。
O 絶対にダメです。

A 従業員の一人が、懐から取り出したのはバターナイフだった。
一同 ひー。

J 正気かよ、こいつ。

O 私の命にかえても、お客様の極楽気分を邪魔させません。

J 正気かよ、こいつ。

I もういい。やっちまえ。

A ロビーにいたこともからお年寄りまで総勢30名は従業員にとびかか
る。多勢に無勢、バターナイフを取り落とす。

O オーナー兼シェフ兼クレーム処理係。厨房に部外者が。厨房に部外者
が侵入。

A しかし、その声は厨房には届かなかった。

厨房。

A 赤坂君は、何時になったら帰ってくるんだ。

N もう待てません。早く調理を始めましょう。

H 停電になれば、何も出来なくなってしまうす。

N もし冷蔵庫の電源が落ちれば

H 極楽気分は台無しです

A 仕方がない。やるぞ。厨房にいたのは3人。シチューをシチューして
いた。そこに、先ほどの避難民が乱入。こどもからお年寄りまで総勢
30名に、あっという間に取り押さえられた。やめろ。やめろ。

- J おい、みろよ。やっぱり、ビーフシチューだ。
- I ホテルの客にだけこんなもの。
- J 冷蔵庫にまだ何かある。
- I もういい。全部だしちまえ。
- J 上げえなこりや。
- I なにが上げえ？
- J いや、こりや豚だよ。豚がまるまる一頭。
- I 豚の一頭買いとほ、ずいぶんと景気がいいな。
- J いや、こりや牛だよ。牛がまるまる一頭。
- I 牛の一頭買いとほ、ずいぶんと景気がいいな。
- J いや、こりや、ババアだ。ババアがまるまる一頭。
- I ババアの一頭買いとほ、ずいぶんと景気がいいな。
- B ……ってババア。
- A えー？怖いですねえ。冷蔵庫の中に吊るされていたのは、御年九十。大正生まれ。お得意様のおばあちゃん。丸裸にされたおばあちゃんの死体だった。血の気は失せて、真っしろけ。さらにはその右足のモモから先は、なくなっていた。なくなっちゃいけない。そこにある。ぐつぐつ…シチュー。
- 一同 お前らは、お客様を食ってんのか。
- A 食ってはいない。料理している。お客様を美味しく料理して差し上げている。
- 一同 料理してどうするんだ。
- A 本日、ご宿泊されている、お得意様の親戚やら友人やら、あわせて総勢22名。にふるまうんだよ、ババアのシチュー。すべてご家族ご友人、何より当の本人の、ご希望通りのおもてなし。
- L シチューにしてくれてありがとうね。
- C おばあちゃんのシチューが出来たぞー。
- B いただきます。

【9】

A 完全会員制のリゾートホテル「パラディソ」。そこで行なわれていた極上のサービス「極楽気分」。それは宿泊客の肉体を調理し、親戚や友人たちに振る舞うというものなのだ。

この有り様をたまたま見てしまった、こどもからお年寄りまで総勢30名は、すぐにホテルを逃げ出した。

一同わーっ。

A 不思議なことに、この時点では、誰も警察に通報していない。地震や津波に襲われて、衰弱した時に会った地獄。あまりにも信じられなかったんだらう。はいー。

こんな話を聞かされて、ちょっと気分が悪くなった。そんな人います正直に？

一同（手を上げる）

A やめる、続ける、どうします。やめたらクビだよ、うん続行。

【10】

某公立大の教授（D）。

D 故人の肉体を、その親族や、親しい友人たちが美味しく食べる。その風習はいつ、どこで始まったかはわかっていない。大和民族がこの国を制圧するより前からあったと思われる。弥生時代、縄文時代、それよりも古い原始時代。

G その起源はやはり中国でしょうか？韓国でしょうか？

D いやいや、日本も中国も韓国もない、大昔さ。ただ、日本のそれは、東北地方で、江戸時代までは残っていたらしい。誤解するな。単なる人食いじゃない。食べることで、供養するのだ。そういう弔い方なのだ、宗教的な意味合い、強し。

- G なるほど。
- D 冬場におけるタンパク質の補給という観点から、それはなかなか、いいカンジの風習でもあった。新鮮な肉が手に入るんだからな。
- G 教授。最後にもうひとつだけ、聞かせてください。
- D なんだね。
- G 人間の肉はおいしいんですか？
- D なんだと？
- G 人間の肉はおいしいんですか？
- D おいしくないよ。
- G どうしてですか？
- D もし、美味しいんだったら、もっと食べてるはずじゃないか？
- G 僕はそうは思いません。本当は、人間の肉はおいしいんじゃないですか？それを大人たちはこどもたちに隠して、こっそり食べているんじゃないですか？
- D そうだったら、どうかね。
- G お忙しいところ、ありがとうございます。
- D おい、私の講義に紛れ込んで来た小学生。君は一体、何者だ。
- G 僕は肉屋の少年。
- D 肉屋の少年。
- G あなたを訪ねて高円寺からやってきました。
- D 次来るときは、ちゃんとアポをとりたまえ。

【11】

警察（J・D）に囲まれる教授。

- J その少年が来たのは。
- D 夏の暑い日だった。
- K 人を食べる文化について
- D とても熱心に聞いて来た。

- J 変わったところは。
- D 別に何も。
- K 別に何も。
- D おまわりさん。
- J 刑事さんと、呼んでください。
- D 刑事さん、
- 一同 ピッ。
- D あの少年が何かしたんでしょうか？
- J 少年の家は肉屋を経営。
- K そこで家業を手伝ううちに、
- J 彼はお肉に興味津々
- K 夏休みの自由研究。
- D タイトルはお肉の種類。「牛」「豚」「鶏」…それぞれの特長、調理の仕方、よく調べてるじゃないか。
- J ページを進めて。
- D 「馬」「鴨」「羊」「イノシシ」「ウサギ」「クジラ」「犬」
- K そして最後が…
- D 「人」
- G 「うちのお肉屋さんにはいろんな肉があります。しかし、僕はまだ「人」の肉を見たことがありません。できればいつか、人の肉を料理したい食べてみたいです。人肉」
- D で、どうしたんですか？
- J どうしたかって？
- D それで、少年は、実際に人肉を食べたんですか？
- J K 別に何も。
- D 別に何も？じゃあ事件ってのは？
- J K この自由研究。
- D 自由研究だけ？
- J これだけで十分、事件です。
- K 異常です。
- D おまわりさん。

J 刑事さんとよんでください。

D 刑事さん。

一同。ピッ。

D こんなものは事件でもなんでもない。夏休みの自由研究なんです。何をやったって自由なんです。アカデミック・イズ・フリー。朝顔の成長、アリの巣の観察、そんな型にはめられた研究よりずっといい。しかも彼は、この自由研究の為に、自らの足で、私のところにまで来たんです。少年の学問に対する純粋な思いを封じるなんて、許せない。場転。その一ヶ月後、2010年9月。

【12】

マスコミに囲まれる少年（G）。

一同カシャカシャ…

D マスコミはひどいね。君のことをまるで、精神異常者のように報じている。

G もう肉屋も続けられません。家族で、誰もいない町に引っ越すことになりました。

D 可哀そうに。というワケで、僕は君を保護しました。君の人肉に対する学術的好奇心に惚れたのさ。どうだ、キモいべ。こんなことになっても、まだ君は、人肉に対する興味は消えていないか。

G 人肉人肉人肉。

D パッション受信、完了。ならば教えてあげよう。人肉に関する私の秘密の調査結果を。ここで今さら、自己紹介。そうだ私は変態だ。某国立大の文化人類学の教授。最も興味があったのが古来より伝わる人肉を食べる風習だ。

A この変態教授が「パラダイソン」の存在に勘づいたのは2008年頃。

D 場転。

【13】

ホテル「パラディーン」。

A よく、この場所がわかりましたね。

D 風習、慣習というものはそう簡単に、なくなりません。どこかでひそやかに、行われてると信じていました。死者の肉を調理して食べる。

そうすることで供養する。通称「ほふり」。

A セイ。

一同 「ほふり」

D この「ほふり」の儀式。リゾートホテルの形をかりて、こっそり続けていたんですね。

A どうしようってんです。

D 世間にあなた方のことをばらす、

一同 ひー。

D なんてことはしません。

一同 ほっ。

D だって、それは文化ですし、それを執り行うのはサービスですし、部外者がとやかく言う必要はありません。

私の願いはただ一つ、私をみなさんの、友達にしてください。

A はい、「ほふり」に参列するには条件がある。親族あるいは親しい友人。親族の場合は無条件で、友人の場合は生前にそれにありつくという約束を、親族の前でしていなければならない。

D 私をみなさんの友達にしてください、
そして、人間を食わせてください。

M いや、先生、あんたは友達だ。いろいろな話を聞かせてくれたし、あなたに会えてよかった。いいぜ。食ってくれ。

D 人のお肉を美味しく調理するエキスパート。

A それが通称「ほふりびと」。

老人（M）登場。

- M 孫がカレーが大好きでね。死んだらカレーにしてもらいたい。
- A ご相伴の方は、親戚や友人、あわせて15名。15名ですと、全て食べ終えるには二日はかかります。カレー以外のメニューもお伺いしたい。
- I 回鍋肉。水餃子。サイコロステーキ。
- M サイコロステーキはやめてくれ。満州から引き上げた時に、五反田の闇市で、丁半バクチで痛い目にあつた。もうサイコロはこりこりだ。
- A それでは、普通のステーキで。
- 一同 ハハハ。
- D 終止、和やかな理由は「食」だから。この会話は「死」ではない。故に、どこか前向きなのだ。
- A それではいきますよ。
- D 「ほふり」のほとんどは自然死ではない。
- G 自殺ですか。
- D 安楽死と呼んでほしい。自分が年老いて痩せ細る前に、肉づきがよいうちに、愛する家族に食べてもらいたい。そんな願いから、自死を選ぶ者が多い。
- A 手首に切り傷をいれ、水を張った桶に突っ込む。さらさらと血が流れ出し、顔は真っ青になる。
- L ポテチ食べていい？
- I だめよ、たーくん。今からおじいちゃんバラバラにして食べるんだから。
- M たー坊、食べなさい。ポテチでも何でも。
- L でも…
- M そのかわり…おじいちゃんのカレーも、残さないでくれよ。
- L うん
- M ああ、ああ、みんな、ありがとう。はあ、はあ、歯あ磨けよ。俺を喰った後は、歯あ磨けよ。入れ歯とか差し歯とかじゃ、年取ってからつもらんぞ。

一同 おじいちゃん？おじいちゃん！

A それでは、故人様の「ほふり」の議、執り行わせていただきます。

D (いろいろ言う) ヒナバウシユもびっくりぽんやで。

A カレー。

I いただきます。

一同 いただきます。

L おいしいー。おかわり。

D その老人はすぐにカレーになった。あの、コレは、どこの部分でしようか？

A 煮込みに適しているのは筋が多く硬い部分です。主にはモモとすねの部分を使っています。

D いただきます。

G 教授。教授は、人の肉を食べたんですね。

D ああ、食べたよ。私は変態だからね。

G お味はどうでした。

D うまい。美味過ぎる。こりや、極楽や。

A 愛するご家族と過ごす最後の瞬間を演出する。それが「ほふり」。そして私は「ほふりびと」。

D 肉屋の少年。行きたいか。君が望むなら連れて行こう。

G 行ってみたいな、夢の国。人肉を食べるパラダイス。人肉。人肉。人肉。

【14】

芝居をとめる少年役俳優(G)。

G すみません。ごめんなさい。怖いです。

D なんですか、この肉屋の少年。怖いですよ。

A 評判悪いな。でも、もうちょっと続けさせて…。

G (少年) 僕の初恋は幼稚園。

A お、何の話が始まったー？

G 僕の初恋は幼稚園。いつもニコニコこずえちゃん。僕は彼女が大好きだった。ある日、初めて遊びにいった。彼女の家は、お花屋さん。店先には色とりどりの、花と植物が生い茂り、むせ返るような「命」の二オイ。僕はガタガタ震えだし、走って家まで逃げ出した。それが初めての失恋だ。僕のおうちは肉屋さん。ひんやりとした家の中。鶏や獣の血や死体、むせかえるような「死」の二オイ。そんな者たちに囲まれて、僕は心からやすらげる。命を感じることができる。

(芝居をやめた) すみません。ごめんなさい。怖いです。

D なんですか、この肉屋の少年。怖いですよ(本当だよ)。

A わかった。一旦、どっかいこう。でも大事な登場人物だから。キーマンだから。忘れないで。はい、肉屋の少年。セイ。

一同 肉屋の少年。

A まとめまーす。

一同 はい。

A メモとれメモとれー。

この国ジパングジャパンには、人間ばくばく美味しく食べる、そんな風習あったのさ。安らかにあの世へ極楽へ、送る儀式だったのさ。さっき出てきた、お姉さん、弟くんも、その儀式、平然とやってるそんな家、そんな土地に生まれたわけなのさ。

【15】

弟(E)の話。姉(F)ら家族。

E 太平洋戦争に行っていたという祖父には、左耳がなかった。

K (祖父) 太平洋戦争だったってなあ、太平洋には行ってない。行ったのは、ビルマだ。ミャンマーさ。そこに駐屯していたイギリスと戦った

のさ。じいちゃんは通信隊に所属していな。

E 祖父には耳が無かった。戦争でやられたの？

K ああ、いや、この耳は、おばあさんが食べたんだよ。戦に行けば、十中八九、生きて帰ってはこれんでな。せめて嫁をとらせてやろうという親心で、ばあさんを嫁にもらったんだ。で、いざ戦に行く時に、さみしかろうと思っただけで、耳を、食べてもらった。じいちゃんの体が外国で無くなってしまっただけで、

J (祖母) たいへん美味しかったですよ。

K 俺の左耳を美味そうに食べる女房を見るのは、とても幸せだった。

J おじいさん。おじいさん。80年間、お疲れさまでした。よいしょー。

J (祖母)、K (祖父) を調理した。

J できたよー。いただきます。

昔は、どこの村でもあったのさ、国の監視も厳しくなって、大っぴらにはできなくなったけど、そんなの悔しいじゃないか。あたしはね、自分の父も母も叔母も兄も、旦那も、みんな食べて来たんだ。みんな、おいしくいただいて、私の胃袋におさめて、弔って来たんだよ。それをなんんだい。死んだらいきなり燃やして、灰にして、墓に入れるだなんて。

E 人肉を食べるのは、前時代的だという意見が大半だった。

J 前時代的？

E 古いつてことさ。

J 極楽に行くのに、古いも新しいもないだろう。私は、私の好きなように死にたい。ケンジ、最後はおいしくしてくれよ。

L ホテル「パラディソ」。A (オーナー) がJ (祖母) を調理。
(父) いただきます。

リゾートホテル「パラディソ」か。よかったよ、こんな場所があった。人をおいしく料理するのも大変なんだ。おふくろも喜んでるだろう。こんな美味しいしょうが焼きにしてもらって。だがな、佳典、お前は

好きにしろ。こんな風習。いつまでも続かない。

E 父さんが死んだ時は、どうしたらいい？

L 「ほふり」なんて面倒だ。「ほふりびと」を探すのも手間だ。時間も金もかかる。

E 手間とかじゃなくて、父さんはどうして欲しいんだ。

L 火葬は熱いから嫌だな。土葬は狭いから嫌だな。そうするとやっぱり「ほふり」か？お前が喰いたいというなら、喰えばいい。ただ、父さんは辛いものが苦手だな。麻婆豆腐だけは勘弁してくれ。

調理される、L(父)。

M (母) やだ、そんなこと言ってたの。

E 聞いてなかったの。

M なんでもいいって言ってたもんだから、麻婆豆腐にしちゃったわよ。

ごめんね、お父さん。いただきます。

F 母さんが好きなんだったらいいんじゃない。

M そうね。母さん麻婆豆腐大好き。

E 母さんは死んだら何になりたい？

M なんでもいいけどさ、母さん、弘前の生まれだから、熱いのは嫌なのよ。冷たくして、冷しゃぶ。冷しゃぶがいいわ。冷しゃぶになってゴマだれで。オーブンはいやよー。ピザとかグラタンだけは止めて頂戴。

調理される、母(M)。

F いただきます。

E 母さん、グラタンだけは止めてっていったのに。

F 姉さんは、グラタンが好きなの。

A 故人の希望にそった「ほふり」を行ないたいのですが、故人の希望だったって、食べるのは私よ。ごちそうさま。

E 姉さん、姉さんは死んだら何になりたい。

F え？私？

- E 和？洋？中？インド？
F あんたは死んだら何になりたいの。
E え？俺？
F 和？洋？中？インド？
E 俺は…チーズバーガーになりたいな。
F おっけー。あんたが先に死んだら、私が食べてあげる。
E 姉さんが先に死んだら、俺が食べてあげる。
E F (笑う)

A その姉さんと弟くんは、このパラダイソで、祖母と両親を食べてきた大切な会員様だ。そして2010年3月。

【16】

- F 母さんの三回忌、
E 父さんの七回忌、
F おばあさんの十三回忌。
E ばっちり揃った今年です。
A 奇跡の年ですね。
N もう当分は来ないかな。
A 来られても困る。ルックミー。腕がしびれてる。
一同 わあ…急にしびれてる。
A 包丁が握れないのです。
E え、じゃあ、来年の極楽気分は。
F 極楽気分は。
E 極楽気分は。
F 極楽気分は。
A そうですねえ、どこかに、赤坂の料亭をクビになったことをきっかけに、アルツハイマー的な母親の介護のために、仙台に帰って来た様な男がいればいいんだけど、それから5ヶ月後。2010年8月。

C（赤坂）とB（嫁）。

- B あそこのホテルは？
- C 偶然、見つけたのがこの「パラダイソ」。イタリア語で天国。
- B おしゃれね。
- C ラブホテル？
- B いや、違うっしょ。おっきいポンプとボイラー。中に大浴場がある。
- C 嫁は鋭い。
- B あのー、すみません。あたしの配偶者、こちらで働かせてもらえないでしょうか？誰もいないのかな。ちよつくら厨房行ってみよう。

厨房で調理をしていたAたち。C（赤坂）に気づき悲鳴をあげる。

- A 見たな。
- C 見てないです。
- A 見たな。
- C 見てないです。
- A 本場に、何も見てなかったの。
- C 本場に、何も見てなかったんです。
- A あ、本場に何も見てなかったんだ。それなのにオイラときたら、
いいや、見たんだよ。お前は確かに見てしまったんだ。僕らのヒミツ
を。
- C そういつって圧力鍋を指差した。見られちゃいけない秘伝のスープ？企
業秘密かと思ったんだ。
- 一同 見られたからには、生かしておけない。
- C これもジョークかと思ったんだ。
- 一同 ジョークじゃなくて本気だった。
- A だって、その時、僕たちは、5歳の若さで病死してしまった女の子を
両親の希望により本人の大好きだったポトフにしてみましたから。
- C 圧力鍋に入っていたのが、まさか女の子だったなんて、その時は知ら
なかったんだ。

- 一同 見られたからには、生かしておけない。
- A いや待て。僕らはホテルマンだ。人殺しじゃない。
- N じゃあ、どうするんです。
- A 採用。むしろ採用。仲間にしてやる。
- B やったじゃん。再就職できたじゃん。がんばんな。わー。
- A 調理の経験はあるヨ、ないヨあるヨない？
- C 赤坂の料亭で板前見習いを。
- A 期待のルーキーが出たよー。
- ナイスタイミング。じゃあ君、早速、鍋を見ていてくれ。
- C ここで初めて鍋の中を見た。寸胴の鍋の中に、女の子がこんな感じで入っていた。俺は悲鳴をあげた。ひゃあん。エロマンガみてえな悲鳴だった。
- A 灰汁がでたらすくいとる、ふきこぼれたら火を弱める。繰り返したまえ。
- 一同 繰り返したまえ。
- A 繰り返したまえ。
- 一同 繰り返したまえ。
- C 怖かったけど。従った。
- A よくできたじゃないか。味見したまえ。
- 一同 味見したまえ。
- A 味見したまえ。
- 一同 味見したまえ。
- C 味見した。すぐに戻した。げーげー吐いた。食道と胃袋を消毒しよう
と、中性洗剤を飲み込んだ。
- A 何やってんだ中性洗剤。死ぬぞ。
- C どうかしてる、すぐに蛇口に口をつけて。
- 1時間は飲んで吐いてを繰り返した。
- A いや、2時間だ。どんな味がした、あの女の子。
- C 分かりません。
- A わからない。混乱しているな。
- C 分かりません。

- A もう一度、ちゃんと食べてみる。
- C いやだ…こんな人肉が…おいしいわけ…(食べた)おいしいっ。
一同 ですよねー。
- A ご両親ー。
- D E (娘の両親) ひよりちゃん。
- C 娘を失った悲しみに、どんよりしてたご両親も、ポトフの味にえびす顔。
- D E おいしー。
- A 死という悲しみを、食べるという行為で乗り越える。それが「ほふり」。
そして私は「ほふりびと」。
- ウエルカム・トウー・ザ・ニューワールド。
- C ポトフの美味しさで恐怖心が一気に消えた。赤坂の料亭をクビになった俺は、この仕事「ほふりびと」に興味を覚えた。

【17】

C (赤坂)の家。 B (嫁)。

- B お帰りなさい。臭くない。中国人くさくない。韓国人くさくない。
ってかむしろ、いいにおい。ポトフかなこれ、いいにおい。
- C 母さんはどうだい。
- H (母) お金がない。お金がとられた。
- B 被害妄想ばっちばち。アルツハイマー最前線。
- H 嫁。ごはんはまだかいな。
- B お母さん、さっき食べたでしょ。でも食べなさい。はい、パピコ。
- C 「ほふり」のことは家族には。言える訳ないし言う必要も無い。母は僕を金づるとしか思っていないし、妻は僕の顔がタイプなだけのバカだ。「ほふり」は単なる人食いじゃない。故人を極楽におくる尊い行為。…なんていくら言ってもわからないだろう。そもそも、うちは葬式に対する意識が低い。父さんの葬式だってそうだった。

父の葬儀でのH(母)。

H お坊さんもお経もいらさないの。それが、マインドネイチャーの作法だから。

C マインドネイチャー？

H その分お布施もいらさないの。経済的でしょ。

C マインドネイチャー？

H 新興宗教よ、言わせないでよ、恥ずかしい。

○ どうも、ネイチャリストです。

C ネイチャリスト？

○ それでは、皆様で故人様をお送りしましょう。

一同 ネイチャー。

○ マインドネイチャー。

一同 マインドネイチャー。

○ ネイチャーマインド。

一同 ネイチャーマインド。

○ マイネチャマイネチャ。

A はい。

一同 マイネチャ、マイネチャ。

A はい。

○ ネチャマ、ネチャマ。

A はい。

一同 ネチャマ、ネチャマ。

A はい。

C こんなもんで、極楽行けるのか？

H あの人の極楽より、私たちの地獄のことを考えましょう。

C 地獄？

H あの人の作った借金がまだまだうちにはあるんだからさ。

C 父さんの作った借金ってのは、賠償金だ。脇見運転で小学生をはねとばし下半身不随にってしまったのは僕が高校生の時。何がマズいって

- 父さんは、そのまま逃げたんだ。家族が背負った一千万の賠償金。高校教師だった父さんは職を追われて、うちの家計は火の車。
- H あなたも飛び込んだじゃえばいいんじゃないの。そうすれば、相手から賠償金ぶんどれるんじゃないの。やろう。私も一緒にいってあげるから、
- C 父さんと母さんは、ふたりで自動車に飛び込む練習をしていた。馬鹿だ。仕事もろくに探さずに、毎日毎日、飛び込み練習。そしてついに、
- H まったく、どうせ死ぬなら交通事故でも起こせば、賠償金がもらえたのに、まさか心不全だなんて。あー、人間ってのは、死んだら、灰にしかないんだね。これが全部、金になったらねえ。葬式は、一番安いやつにしましょ。安い葬式、ヤホーで検索、見つけたわこれ、マインドネイチャー。
- C 母さん、俺は、料理人になるよ。東京の調理学校に行く。
- H 行かせる金なんてないよ。
- C 年齢をごまかして、名取のホストクラブで働いて、金を稼いだ。情けないねえ。
- H 情けないねえ。
- C 上京して目白の料理学校に入学。そこに講師でやってきた料理研究家のおばさんに取り入った。
- H 情けないねえ。
- O (おばさん) 私の知り合いの赤坂の料亭に欠員が出来たの。あなた、そこで修行してみない。
- C なんや、かんや、ありまして、今にいたる。
- A 赤坂君は私の元で修行した。全国各地から「ほふり」の為にパラディオンを訪れる老若男女21人を調理した。
- (味見する) まだ味に角がある。焼き方にもムラがある。だがそれでよし。センスはあーる。
- C あざす。
- A 僕の弟子たちの中でも、一番輝いてイーティー。
- C ここに来て半年後。2011年3月上旬。
- A 御年九十。大正生まれ。お得意様のおばあちゃん。来週ここにやって

くる。極楽気分をご所望だ。しかし、バットタイミング。ルックミー。腕がしびれてる。

一同 わあ…急にしびれてる。

A しかしある意味ナイスタイミング。君だよ、赤坂君がいる。「ほふりびと」としてのデビューだ。私も先輩達もサポートする、安心したまえ。

L (お得意様)私をシチューにしてくださいな。こども、まご、ひまご、やしゃごたち、みんなシチューが大好きなんだ。

C 3月11日午後1時。お得意様の手首を切り、

L よいしょ。

C ゆっくりと水につけ…。

L あべし。

C それでは故人様の「ほふり」の儀、始めさせていただきます(調理)。

A 修行の成果が出たよー。

C フトモモから下は、6時間以上かけて煮込みましょう。

一同 はい。

C それ以外は冷蔵庫に入れて、明日以降に調理します。

一同 はい。

C お得意様、僕が極楽に送ってあげますよ。

A という赤坂君の願いは、叶うことはなかった

【18】

A そして10時間後。2011年3月11日午後11時。

ホテル「パラダイソ」に帰って来たC(赤坂)。

C 遅くなりました。

A 遅かったじゃないか、赤坂君。びしょ濡れじゃないか。すごい汗。

C 汗じゃありません。海水です。途中で津波に呑み込まれて。

A 頭がアレな母さんとモラルがアレな奥さんは

- C そのエピソードは後半で。
- A サンキュー。
- C それより早くお得意様をシチューにして差し上げないと。お得意様のシチューをシチューしないと。
- A それはもう大丈夫だ。しびれる腕もなんのその。私が作ったババアのシチュー。親戚ご友人ペロリング。
- C なんてこった。「ほふりびと」としてのデビューを逃してしまった。次こそ絶対俺が調理するぞ（希望の眼差し）。
- A 眼差し、はんぱねえな。というか、君と一緒にだった、姉を探す弟君は、どうしたんだ。
- C 途中まで一緒だったのに。
- 車で移動するE（弟）とC（赤坂）。
- C 8時間前。2011年3月11日午後3時。
- E 姉さん、姉さん。
- C 漁港だったって海は広いし、大きいし、探せるのかい。
- E 手当たり次第に探します。海にいなけりゃ町、町にいなけりゃどこに
いこう。
- C 避難所を探したらいい。小学校とか中学校、高等学校の体育館。
- E ありがとうございます。
- C 彼とはこの12時間後に再会する。
- C（赤坂）の家。B（嫁）。
- B お帰り。
- C お帰りじゃないよ。早く逃げるぞ。津波が、うんたら、かんたら。
- B そんな大袈裟な。でも、ありきたりな毎日に、非日常体験を。逃げて
みっか。
- C 母さん。何やってんの。
- H 写真とってんのよ。

- C 天井に、ヒビが入ってる。
- H 大丈夫よ。地震保険が、おりるから。これでお金が手に入る。
- C 母は金の話しかしません。
- B 隣んち燃えてる、燃え移る。
- H 大丈夫よ。火災保険が、おりるから。これでお金が手に入る。
- C 母は金の話しかしません。逃げるよ。母さん。
- H 待って、判子と通帳が金庫に。タンス貯金もたんまりあるし、ガストのクーポンがあつたんだ。
- C だめだよ、母さん。逃げないと。
- H 待ってってば。
- C 母さんは、俺の手を振り払った。東京から仕送りを続け、母さんの為
- C に仙台に帰って来た俺の手を振り払った。
- B しょうがない。こいつにとっちゃ金が1号。命が2号。私たちだけで逃げましょ。
- B とか言ってるうちに、「TUNAMI」に呑み込まれた。
- 大海となり襲いかかる一同。
- 一同 見つめ合うと素直におしゃべりできない。サザーン。
- B C オールスターズ。
- B 洒落になってねーって。母親、流されたじゃん。つか、家どっかい
- C ったじゃん。
- C 母さんの姿はどこにもなかった。
- B あんたの職場に逃げさせてよ。
- C 妻には「ほふり」のことを話してない。あれを見れば取り乱すに決
- C まってる。ダメだ、ダメだ、ダメだ。
- B じゃあ、どこに逃げろってんだよ。
- C 避難所を探したらいい。小学校とか中学校、高等学校の体育館。
- B 了解。いや、待て。女一人で逃げろってのか？
- C ホテルにはまだお客様がいるんだ。

- B むかついた。もう別れる。結婚指輪を。ポイ、いや、こんなもんでも売れば二束三文。もらっていくぜ。
- C 生きている妻を見たのはこれが最後でした。
- B お疲れさまでした。

【19】

遺体安置所。

- C 次に会ったのは翌々日3月13日深夜未明。
- G (少年) ああ、そうでした。僕も一緒でした。
- 一同 肉屋の少年。
- C この指輪、間違いありません。妻です。
- G 薄暗い、遺体安置所。
- C 妻がどうしてこんなところで横たわっていたかは、今となっては、わからない。
- G 奥さん、どうします？
- C マイホームにつれて帰る。
- G マイホームはもう海の底。そんなとこに連れて帰ってどうします？
- G コヤシャコのエサにするんですか？
- B というか、いつからいたんだ、肉屋の少年。
- D 半年前。2010年9月。場転。

D (教授) とG (肉屋の少年)。

- D 疲れているようだね。
- G 連日連夜の精神鑑定。先月、江東区で起きた女兒誘拐殺人事件。その犯人じゃないかとも疑われて。
- D 可哀そうに。ようこそ宮城。おいでませ仙台。ずんだシエイク。
- G ここですか。ここで人肉を食べてるんですか。わくわく。わくわくですよ。

- D 焦りなさんな、肉屋の少年。駅からタクシー40分。リゾートホテル「パラディーソ」。人肉料理のエキスパート。通称「ほふりびと」
- A おっきい声でいっちゃダメ。ひた隠せ。
- G 人肉。人肉。人肉。
- A 教授。へんなヤツを連れて来ないでください迷惑です。
- D いいじゃないか、君と僕は友達なんだから。
- G さっそく人肉食べさせてください。肉本来の味が楽しめるのはやはりステーキ。焼き方はミディアムで。
- A おい。誤解するな肉屋の少年。これはあくまで用いの為にやっているんだ。ご遺体は家族、友人しか食べられない。
- G じゃあ私をみなさんの、友達にさせてください。
- A 絶対にやだ。昔そう言ってきた某国立大の文化人類学の教授がいて、以来つきまとわれて迷惑している。
- D それってつまりは私のことか。
- A ビンゴ。
- D G チョレイ。
- A しかもバットタイミング。ルックミー。腕がしびれてる。
- 一同 わあ…急にしびれてる。
- A 包丁が握れないのです。
- D え、じゃあ、今後の極楽気分は？
- G 極楽気分は。
- D 極楽気分は。
- G 極楽気分は。
- A 先月、入った新人の赤坂君。
- C 俺が赤坂だ。
- A 彼はなかなか優秀だ。修行すれば、きっと立派な「ほふりびと」になる。早ければ来年サン・イチイチにデビューだい。
- G 僕はそうは思わなかった。たしかに料理人としては、この人は一流かもしれない。でも、どうも肉に対する情熱がない。肉屋の息子である僕は、心のどこかで、赤坂さんをナメていました。
- C そうなの。

G すみません。

C 半年後。「ほふりびと」としてのデビュー直前にも、やはりナメられた。

E (弟) 2011年3月10日。赤坂さん。

C 俺が赤坂だ

E あなたの本気はよく伝わった。しかし、腕前は疑わしい。食ってみてえな、あなたの料理。あなたの手掛ける極楽気分。

C わかりましたが、それには何より、お得意様のお許しを。

A お得意様ー。

L いいよ。

A 許可、得た。

C 明日は3月11日。お得意様の極楽気分。それをちよいと味見して、お気に召したなら、お姉さん。明後日はあなたの極楽気分、私がやりますつとめます。

E F お手並み拝見といこうじゃねえか、赤坂さんよお。

F とか言ってたんだけど、結局、赤坂さんのお手並み拝見するチャンスは無かった。地震がグラリで津波がザパン。私は、赤坂さん以外に「ほふり」をしてもらうという選択肢を失った。

【20】

ホテル「パラディーズ」。

F ただいま。

A お姉さん、無事でしたか。

F 弟は？私の実弟は？

A 弟さんはあなたを捜して漁港へと。

F 見事に行き違い。

A うっかりロミジュリ。

F ご覧の通りこの私は、津波で流されやってきた、スポーツカーにマト

モにぶつかり腹が割けての致命傷。

一同 ひー。

A そんな体でよくもここまで。すぐに医療器具を。

F 医療器具ではなく、調理器具を。「ほふり」をお願いします。

一同 えー？

F 助かったところで私の体は大腸がんに肝臓がん。余命いくばくもありません。

A がんなんですか。

F がんなんです。

一同 がんがんにがん

F がんがーん。

今から4ヶ月前。2011年12月の札幌。

姉（F）と弟（E）。

F 大腸がん。転移してもはや肝臓がん。私、もうすぐ死ぬみたい。

E エンドレスシヨック。

F ごめんね、あんたをチーズバーガーにして食ってやろうとか、思ってたんだけど、先に逝くわ。

E なんとか、セカンドオピニオン。

F いや、無理だし、死ぬし、諦めよう。

E 諦めちゃダメだ。

F 怖くないよ。私は、あんたに食べてもらうんだから。

F 行こうよ仙台。「バラディーン」。おばあちゃん、お父さん、お母さん、みんなあそこでほふられた。みんな食べて来たじゃない。私のコトも残さず食べてね。

E 新千歳空港。

F はい。なんやかんや、ありまして、今は腹から内蔵、飛び出しています。今すぐ「ほふり」をお願いします。

A 弟さんは、何が好きなんですか。

F ナポリタン。シーフードナポリタン。

- A 大量の水と火力が必要、被災地では一番つくっちゃならねえ代物だ。
F ただの死体になりたくない、素敵なごちそうになりたいワイ。
大腸がん、肝臓がんなんかに体が食われるのなんてごめんだ。
私は愛する家族に食べられたいんだ。
C パッション受信、完了。じゃあ、僕にまかせてください。
F 赤坂さん。

【21】

E (弟) が飛び出す。

- E はい。僕もたくさんしゃべります。
一同 フー。

E 姉さん。だめだ、どこにもいやしない。やっぱり流されちゃったのか。やっぱり流されて海の底。タコやシヤコに喰われたのか。
いやだよ、姉さん、死なないで。どうか生きていてくれないか。
姉さん一人が生きてさえいたら、宮城県民、東北民、何千人が死んだって、俺はかまわない。何万人が死んだって、俺はかまわない。
いやだよ、姉さん、死なないで。どうか生きていてくれないか。
生きてさえいれば、この俺は、あんたを美味しく食べられる。甘いニオイに誘われるように、ホテルに戻って来たのは3月12日午前3時。

ホテル「パラディーン」

- E 姉さんは、無事ですか。
A 無事です。ほら。(鍋を指す)
E まさか、そのシーフードナポリタンは…。
A 愛するあなたのお姉さん。
E 姉さんの最期はどうでした。
A …云々、
E すべてを理解した。

- C 料理したのは。私です。
- E ありがとう。赤坂さん。いや、シェフ赤坂。「ジェフ市原」のイントネーションで、シェフ赤坂。
- C え？
- E 見事なシーフードナポリタン。
- A お姉さんの体が入ってるなら、もはやシーフードでは無いのでは？
- E うるせえぞメインキャラ。俺の姉さんはシーフード。札幌育ちの、海洋生物だ。
- C え？

フォークを両手に構えるC（弟）。

- A 両手にフォークを持った…？まさか、このパスタの食べ方は、ルパン三世「カリオストロの城」の序盤のやつだ…。
- E （食べた）うまい。姉さん、どうして結婚しなかったんだ。どうして子供をつくらなかったんだ。

現れるF（姉）の幽霊。

- F （姉）私には夢があったの。私はね、あんた以外に食べてほしくなかったからさ。
- 私は、同じ子宮から生まれてきた、あんたにだけ食べて欲しかったんだ。
- E ごちそうさまでした。これで姉さんも極楽行きだ。
- F いや、まだ体、めっちゃ余ってる。むこう三日ぐらいかけて、弟に食べさせてください。
- C あいよ。しかし、すみません。津波に流された母さんを探して来てもいいですか。
- F あいよ。
- D その日、パラダイソで調理されたのはお得意さんとお姉さん。しかし、これで事件は終わらない。何しろ、みんな疲れていた。

- お腹ぺこぺこ肉屋の少年が、ホテルマンたちの目を盗み、お姉さんの肉を食べてしまった。
- G グリルにして、いただきます。
- F やめてー。
- G 余震や停電。いろんな意味でお先真っ暗。しかしどうして腹は減る。ゆえに、我食う。ぱくっ。
- F いやー。
- G おいしい。やっぱり僕の思った通り。人は本当はおいしいんだ。何が「ほふり」だ、ずるいずるい。お腹いっぱい、食べたいな。
- E お前：よくも俺の姉さんを食べたな：そんなことをのたまった弟くんは。
- G 死にました。自殺しました。
- C 君が殺したんだろう。
- G 自殺です。
- C フライパンで後頭部をぐちゃぐちゃにする、そんな自殺があるもんか。
- G フライパンで後頭部をぐちゃぐちゃにする、そんな自殺があったんです。ってか、どこ行ってたんですか、赤坂さん。
- C どこって、津波にさらわれた母さんを探しに。
- G 見つかりました？
- C 見つからないよ。休んだら明日また探しに行く。
- G いいや今夜は眠らせません。早く、弟さんを調理しないと。まさか弟君を火葬にするつもりですか？お姉さんと同じところにかかせてあげなきゃですよ。
- C 弟君：とびきりジューシーな、チーズバーガーにしてやるからな。
- G 札幌からやって来た弟君に家族はいない。このチーズバーガーは無縁仏。従業員一同で、いただきます。
- 一同 いただきます。
- G 教授も、どうぞ。
- D その被災したリゾートホテルは、エネルギーな肉屋の少年に、次第に支配されていった。

【22】

- G 翌々日3月13日深夜未明。
- C この指輪、間違いありません。妻です。
- G 薄暗い、遺体安置所。
- C 妻がどうしてこんなところで横たわっていたかは、今となっては、わからない。
- G 奥さん、どうします？
- C マイホームにつれて帰る。
- G マイホームはもう海の底。そんなとこに連れて帰ってどうします？タコやシャコのエサにするんですか？
- C 「ほふりびと」としての自らの生業に、プライドと誇りと責任を感じていたこの俺は、妻を「ほふり」以外で弔いたくはなかった。
- G 奥さんが好きだった食べ物は何？
- C 妻は偏差値が低かった。だからパクチーが好きだった。バカの一つ覚えのように、パクチーパクチー言っていた。
- B パクチー。
- G ナンプラーぶっかけて炒めましょう。
- D 少年の人肉に対する学術的な好奇心を愛する僕だが、もはや弁護不能だ。やっぱり所詮は公立の小学生。食べられりやなんだっていいんだ。そしてその思いは暴走した。

【23】

遺体安置所をさまよう少年。

- G 死体があちこちに転がっている。ああ、もったいない。もったいない。火葬場だって被災してるんだ。市内にころころ転がる遺体は、やがてどこかで仮埋葬。それじゃあまりに可哀そう。どうせなら食べればいいじゃない。パンが無いなら、お人をたべればいいじゃない。そうだ。料理にしてあげよう。皆を芋煮にしてあげよう。

場面はホテル「レッドクリフ」に。

- D すみません。やっぱり辞めましょう。「芋煮」のイメージが悪くなる。
- A さては君君、山形県民。
- D いいえ、生まれは福岡です。
- A 福岡県民の分際で、芋煮のイメージの心配すんな。柚子胡椒なめながらホークス応援しろ。
- D ソフトバンクホークスー。いまみやー。
- A 言い過ぎた。なあ、福岡県民。でも、これは、どうやら事実っぽ。

被災地をさまようG（少年）。そしてD（教授）。

- D 何をしている肉屋の少年。
- G 被災地、無差別、食材探し。この人、まだまだ食べますよ。
- D いや、腐ってるだろ。
- G 腐ってないです。肉屋の僕には分かるんです。冬で良かった。保存状態もいい。
- D 君は、きつと地獄に行くよ。
- G そんなバカな。これは心を込めてのお用い、ですよ。
- G さあさどつと運びましょう。そしておいしく調理しましょう。
- D リゾートホテル「パラディーン」。被災地の皆様へ、芋煮の炊き出しです。

地震や津波で死んだ皆を、あったかい芋煮で極楽送り。地震や津波から避難した皆に、それを食べさせ極楽気分。地震や津波で死んだ皆を、あったかい芋煮で極楽送り。地震や津波から避難した皆に、それを食べさせ極楽気分。

- A 肉屋の少年。君はとんでもない誤解をしている。君のやっていることは「ほふり」じゃない。故人様への敬意、極楽へ送り届けるといふ心

が無い。単なる野蛮な人食いだ。そんなことをのたまったオーナー兼シェフ兼クレーム処理係はどうなったかというところ。

G 死にました。自殺しました。

C 君が殺したんだらう。

G 自殺です。

C 刺身包丁で背中を二十カ所も刺す、そんな自殺があるもんか。

G 刺身包丁で背中を二十カ所も刺す、そんな自殺があったんです。ってか、赤坂さん。お母さんみつかったんですか？

C 母さん。

G と運命的な再会をしたのは3月14日。

C 母さん。

G だめだこりゃ。腐ってます。喰えば死にます。病原菌まみれです。

C 俺の母さんを病原菌まみれだと。

G どうします。どうやって極楽におくります。土葬？火葬？ネイチャー

C マインド？土葬？火葬？ネイチャーマインド？

C 「ほふりびと」としての自らの生業に、プライドと誇りと責任を感じていたこの俺は、愛する母さんを「ほふり」以外で弔いたくはなかった。

G 喰えば死にます。病原菌まみれです。

C それでも俺は、愛する母さんを極楽に送ってやりたかった。母さんの肉体をバラバラにして芋煮にぶち込み、宮城県内各地で、食わせた。

芋煮。芋煮。

【24】

O (警官) たちに囲まれるC (赤坂)。

O 食中毒だ。

一同 この肉、腐ってるぞ。

C 腐ってるだと。俺の母さんは腐っちゃいねえ。

O この炊き出し、この芋煮。

一同 調べさせてもらう。

D それで発覚、立ち入り調査。こっからはつまんないから、飛ばしに飛ばして。

I (裁判長) 「主文 被告人を死刑に処す」

C 殺人や殺人未遂以外で、死刑になるなんて前例がない。これはもちろん、被害者の遺族、国民感情を配慮してのことだ。でも前代未聞のことだから、その執行には慎重にならざるをえない。弁護士さんはそう言ったけど、やっぱり法務大臣は、人氣が欲しかったんだろうね。僕の死刑の執行にサインをしてくれた。

あれ？おい。法務大臣って、妻の元カレ。

B そう、私の元カレ。

C あれ、俺のこと知ってたのかな？自分の愛人を奪われたとか。

B 馬鹿ね。そんなわけないでしょ。人の顔とか名前とか、覚えられないやつが政治家になれるのよ。(客席に) 選挙いきなよ。

I 「被告人、最後に言いたいことは」

C 私の遺体ですが、つくねにして、おでんに入れてください。ぐつぐつ煮込まれたら、気持ちいいだろうと思うんです。

最高のダシと言ったら、やっぱり赤坂の、

A 裁判で、自分の元勤め先の名前を言ってしまった。

C あそこのダシでお願いします。

A その店はたしかにおでんが有名だったんだが、これでイメージが悪くなり、すぐに潰れた。の前に「パレード」も関係者は全国に離散。いまは跡形も無い。肉屋の少年も、どこへやら。その行方は今日までわかっていない。

【25】

ホテル「レッドクリフ」赤坂店。

A 待て待て。僕は彼女の表情の変化を見逃さなかった。さては君、ピンときたな。他の人は、ピンと来てない。うわ。2週間の研修期間で、君たちは何を見て来たんだ。ピンと来た彼女。何がピンと来たのか発表してごらん。できない？ならば僕が言おう、そう。うちの厨房にいただろう、見た目が小学生にしか見えない童顔過ぎるシェフ。童顔じゃないよ、彼こそ、くだんの肉屋の少年。彼はこの事件ののち、うちにやってきた。

G 赤坂さんが、このホテルの系列の料亭で働いていたって聞いたので。

A 赤坂さん？

G あ、しまった。赤坂さんってのは仮名だ。本名はほにやらら。

A ああ、いたね。そんなやつ。

G 僕をここにおいでください。僕をここにおいでください。辛い現実忘れさせ、極楽に送るおもてなし。いつか作ろう、夢の国。人肉食べるパラダイス。

A 肉屋の少年は完全会員制「パラディーン」の会員名簿を持っていた。盗んで来たのさ。そこには、そう。「極楽気分をお願いします」そういう人たちが載っている。我が国の死者の火葬率は。驚異の99パーセント。しかしあくまで、法的な手続きをクリアしたものだけだ。法律で禁じられ、歴史の闇に封じ込まれたとされる「ほふり」や「ほふりびと」は、2011年の段階で確かに存在していた。そして「ほふり」を希望する者は全国で何人くらいいたのか。そのヒントがこちらの名簿。推定10万人。「ほふり」を行っていた国内唯一の施設であるが故に「パラディーン」は栄え存在し続けていた。では、それが無くなった今、その10万人はどうなっている？
さて、うちのパンフを見てみよう。キャッチコピーはあの日から変えた。デカイ文字でこう書いている。

「ここは皆様のパラダイス」。「ここは皆様のパラダイス」。そしたら、一体どうなった？全国各地から、くるくるくるくる問い合わせ。それが僕らの合い言葉、「極楽気分をお願いします」「極楽気分をお願いします」「極楽気分をお願いします」

一体なんのことですか？そう恍けるのもう飽いた。その意味はもうわかっている。お客様の望みはわかっている。そういったサービスをいうと、経営陣がそう判断したら、うちはいつだってやれるんだ。

さて、もう終わったぞ60分。もう終わったぞ地獄の研修。これで君たちも僕らの仲間。入社おめでとう、ハピバスター。

初任給24万円。年に2回のボーナスに、年1回の昇給制度。交通費支給、残業ゼロ。有給休暇は年20日。

社会保険、労災保険、健康保険、厚生年金。多彩な福利厚生に、社員旅行はプーケット。

やめる続ける、どうします？

やめる続ける、どうします？

やめる続ける、どうします？

やめる続ける、どうします？

どうもしないなら、これにて終わり。

無事に終わったぜ、どうしよう？皆でタンゴを踊りましょう。懇親会にいきましょう。赤坂見附に飲みに行こう。でも強要はできない、それじゃアルハラ。強要はしませんが懇親会の、経費は全額、会社持ち。ラッキーサンキュー。行かなきゃ損だ。

…行かないなら、帰れ。今夜、俺たちは忙しい。

東北新幹線の最終で、某国立大学の、文化人類学教授、経営陣との懇談会。

眠そうな顔しちゃダメですよ。眠そうな顔しちゃダメですよ。オメメぱっちり、スマイルすっきり、背筋しゃっきりでいきまっしょい。しかしリキまず、ほどほどに。ほどほどにリキんで、ハイ完成。

『極楽地獄』

ホテル業界、リゾート業界、レジャー業界の明るい未来。
耳をふさぐな、目を背けるな、これは、極楽の物語。

了

※上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、
必ず劇団までご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。